



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部44円 題字 井戸知事

火のしまつ 君がしなくて 誰がする

平成二〇年度消防庁長官表彰

県下四消防機関一一八名が受章

平成二一年三月六日(金)、平成二〇年度消防庁長官表彰式が、日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われ、各表彰受章者代表者に表彰旗等が授与されました。県下の受章機関、受章者は次のとおりです。(敬称略)

Table listing award recipients across various fire departments in Hyogo Prefecture, including names and titles like '表彰旗 二機関' and '功労章 一〇名'.

平成21年消防出初式日程表(4月実施分)

Table with columns for '地区' (Region), '実施日' (Date), '市町名' (City/Town/Village), '開始時間' (Start Time), and '場所' (Venue) for the 2011 Fire Festival.



「一丸となった消防団を指して」

稲美町消防団長 橋 剛司



稲美町は、兵庫県の東播磨地域のほぼ中央に位置して、神戸市・明石市・加古川市・三木市に囲まれています。

歴史的には水に恵まれなかった大地を、先人が苦勞し淡河川・山田川疎水を築き、一四七箇所のため池を築き灌漑用水を確保して穀倉地として発展してきました。現在では、ほ場整備事業等によりため池も九八箇所と少

なくなりましたが、すばらしい田園風景が広がっています。

稲美町の面積は、三四・九六km²、人口は約三万二千人で、昭和三〇年三月三十一日に三村が合併し稲美町となりましたが、消防団は加古消防団、母里消防団、天満消防団で従前どおりでした。

しかし、昭和五一年一月七日三団を統廃合し、稲美町消防団として、四三分団一三八九名で発足しました。

その後、昭和五七年四月一日に加古川市へ消防業務を事務委託をすることにより、団員数の削減と合理化及び機構改革を図り、昭和五七年から三年計画で昭和五九年一月一日に二〇一名の団員削減を行い現在の八六三名、分団数は六分団で、四三部となりました。

地域に貢献しています。一番に力を注いでいるのは「操法」で、消防の基礎である操法の習得による個々の鍛錬と信頼関係の形成こそが稲美町消防団の組織力の原点と位置づけております。消防団の事業としては、出初式に始まり新入団員・部長・幹部の研修、献血事業、操法大会、水防訓練・防災訓練、各種イベントの警護、加古郡消防協会巡視、そして最後に年末警戒と、多忙な年間事業計画に基づいた活動を行っています。



橋団長と多機能消防車両

これらの訓練や活動により、消火活動、様々な災害等に生かされるよう頑張っています。今後とも地域に根ざした住民から頼られる消防団を目指し、団員が一丸となり「住民が安全で安心して暮らせるまち」づくりができるよう消防団活動を展開していくとともに、今後ますます

消防団今昔

57

「四三年間の消防団活動を振り返って」

今後の消防団に期待すること

元朝来市消防団 山東支団長 藤原 壽雄



朝来市消防団は、平成十七年四月の朝来市誕生と共に、生野町・和田山町・山東町・朝来町消防団により組織されました。私が入団した山東町消防団は、緑深き山に囲まれた花と緑

豊かな農村地域にあって、昭和二九年の町村合併により発足しました。その当時は、二五分団七九〇名という大規模な組織でありました。その後、三回の機構改革が実施され、昭和六一年より七分団二六〇名となりました。

私は、昭和三九年に消防団員を拝命しましたが、当時の分団は、団員数も多く、集落毎に団結を図った記憶があります。消防設備も現在のようなハイテク設備は無く、消防ポンプも六気筒のエンジンの付いたポンプで、しかも手引きの台車に乗ったものでした。また、訓練や指導も今では考えられないほど厳しいものでした。

入団間もなく住宅街で深夜火災が発生し、機庫から三キロほどの道のりをポンプを引いて駆けつけた思い出があります。燃え盛る炎を目の当たりにし、恐ろしさを感じると共に先輩の見事な消火活動に消防の心髄を見た思いでした。これは、「私もこうありたい」と心新たに、「地域のために頑張ろう」と決心させた出来事となりました。

退団するまでの四三年間、数多くの火災や自然災害を経験しました。こうした火災や自然災害の度に思うことは、人命の尊さ、財産の大切さであります。「自分たちの尊い命や大切な財産は、自分で守るんだ」という意識をひとりひとりを持ち、火災の恐ろしさを自覚していかれたらと願うところです。

現在、朝来市消防団は、四支団により消防活動が進められて

地区通信

「憧れのバイクが災害対応」

神戸市支部

【代表者】秋元 勇次氏

【災害協力内容】

- 一、バイク、アマチュア無線による情報収集、連絡
- 二、車載型AEDによる傷病者の応急処置
- 三、車載型消火器による初期消火活動
- 四、バイクによる医師、医薬品等の搬送

人員は三〇名で、そのうち十七名が市民救命士の資格を有しています。

出初式当日には部隊観閲に五台、交通事故を想定した総合訓練には、三台が参加しました。訓練終了後は、会場内に展示され、たくさんのお子様をはじめ、熱い憧れの眼差しでお父様方が見つめている状況でした。

威風堂々とした車格と共に有事における卓越した機動力を備えたこのチームの災害時における迅速的確な活動が大いに期待されます。



卓越した機動力を備えたチーム



交通事故を想定した総合訓練



威風堂々とした車格

「はちどりネット」という名前は、南米の先住民に伝わる「ハチドリ」のひとしずく（監修辻信一・光文社発行）のお話に由来します。これは、森の火事で、われ先に逃げていく生き物の中で、ハチドリだけは、消火のためにくちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでいくという「たとえ微力であっても今、自分ができることをする」という大切さを教えてくれているものです。

なお、「防災協力事業所」登録及び「中央防災はちどりネット」への加入についてのお問い合わせは、神戸市中央消防署までお願いします。

「消防団に入団して」

篠山市消防団
第七分団班長
梶村 洋一



私が消防団に入団したのは平成十六年四月のことでした。団員になるという事は簡単なことですが、その一方で時間の制約等色々覚悟が必要でし

われら若手消防団員 (17)

姫路市網干消防団
旭陽分団班長
野上 勉



現在、網干消防団旭陽分団の一員として早くも一〇年目となりました。これまでに操法大会や各種イベント等に参加させて頂き、消防団員としての活動が多岐に渡っていることに驚くと同時に、消火活動以外にこれらの行事をこなされてきた方々の労力に頭が下がる思いでした。私が入団した動機は同じ村の方からの勧誘だったのですが、よく体験談で聞くような抵抗感

ただ入って名前を置くのと現場で活動するのは全く違うものです。

実際の火災現場での消火活動、事故・天災による災害対策活動はもとより、スムーズに作業する為に、そして何より自分の身の安全を守る為に早朝からの訓練、またポンプ積載車・機器類の整備、点検をしなければなりません。

消防団というのは言わば奉仕作業でありボランティアです。それぞれ自分の仕事を持ち、時間を見つけて活動しています。入団してからというもの、最

初は全く分からない事ばかりでした。不安になる私を先輩方から操作の方法、防火水槽の位置、ポンプの使い方からホースの巻き方に至るまで一つひとつ丁寧に教えて頂きました。そんな中で仲間との繋がり、住民とのふれあい、活動の大切さを学びました。今では後輩に教える立場にあります。起きない、起こさない事が第一ですが、火災等災害に備え安全に且つ迅速に対応出来るように、教わった事を活かしていきたいと思えます。



操法訓練

感じたのが第一印象でした。網干消防団は操法大会の開催が活発な地域で、私もこれまでに五回ほど二番員や三番員として出場しましたが、軍隊さながらの練習は緊張しますが良い刺激となりました。多分、同年齢の方でも普段これだけ全力疾走する場面というのはなかなか経験することがないでしょう。ヘタなスポーツクラブに通うよりは絶対に根性もつくと思います。その長期に渡る練習の為に、団員の方々は仕事や家庭を少なからず犠牲にしながら参加されているのは言うまでもなく、自分が選手として出場しない時でもホース巻きとして毎晩の練習に参加する姿にボランティア精神を垣間見た感じがしました。自分も同じように出来るのかといった不安はありましたが、ある分団長の「皆、仕事がある身

地区通信

「四階が火事だ！いざ出動」

三木市消防団

平成二十一年一月二十五日(日)午前九時から、三木市消防本部の訓練施設で、市街地を管轄する機動分団が合同で共同住宅火災の消火手順を確認するための訓練を実施しました。



これはきつい！ホースを担いで階段を駆け上がる

この訓練は、年末から年始にかけて全国で共同住宅の火災による死傷者が多く発生したことを受けたもので、三木市には三階以上の共同住宅が一三三棟あり、鉄筋コンクリート造の共同住宅については放水可能箇所が限られ、特に三階以上となると地上からの有効放水は望めない

ことから、装備の無い消防団がどの程度の活動ができるか検証するために行いました。「鉄筋コンクリート五階建て(開放廊下・連続したベランダ有り)の四階の一室から出火。放水中にホースが破断し団員一名が負傷した。」との想定で訓練を開始。「火点は四階、同時四線放水、出動」、指揮者の号令とともに曲がりくねった階段を駆け上がり、ホースを延長。放水長が「放水始め」の合図を送るが、階段の踊り場付近でホースが折れ曲がり、スムーズに送水出来ない状況になっていたので筒先までなかなか水が届かない。団員が折れ曲がったホースを修正し、無事放水することができました。今回の訓練を通して機関員と放水長との連絡方法や曲がりくねった階段でのホース延長と送水操作の難しさ、限られたスペースでの活動の困難性、活動中の負傷事故への対応方法や事故防止のための安全管理をどうするかなど得るものは多くあり

また、訓練終了後に煙体験室で煙の恐怖について学び、装備なしでの屋内進入は「厳禁」と言うことを身をもって体験し、意義ある訓練となりました。三木市消防団では、今後もこのような訓練を定期的に行い消火技術の向上と、現場での安全管理教育の徹底を図り、三木市民の安全と安心の確保に努めてまいります。



負傷した仲間を安全な場所に搬送

わがまちの団長さん

158

「地域から愛される消防団を」

神河町消防団
松本 日出一 団長



消防車両三二台をもって地域の安全・安心のため活動しています。松本団長は、昭和六十三年に神崎町消防団に入団され、分団歴十六年を経て平成十六年から団長の補佐役として副団長に抜擢。町合併後も引続き副団長として一期務め、平成二〇年に神河町消防団長に就任されました。

当町は、兵庫県のほぼ中央部に位置する人口約一三、〇〇〇人の小さな町で、面積は約二〇二km²、その八割を山林が占めています。神河町消防団は、平成十八年四月に発足し、現在松本団長以下副団長七名、団員七二八名、

松本団長は、退任を決議された前団長から「次はお前に任せろ。」との言葉に、自らも仕事で夜勤があるにも拘わらず、一言も弱音をはかずに引き受けてくださいました。その責任感の強さは、昨年開催された全国消防操法大会にも

表れ、「消防操法で養われる礼式規律、団結力、操法技術が消防団の基本訓練であり、我々の伝統。必ず全国大会の切符を勝ち取り、全国制覇を成し遂げる。」と毎晩のように訓練指導にあたられ、夜勤であっても出勤前には必ず顔を出し叱咤激励をされていました。また、自身も全国大会を二度経験し、その辛さと大変さを十分理解され、選手の顔色から精神状態まで一人ひとりの体調を常に気かけ、また家族の方にも大変申し訳ない、と手紙を書いてみるなどあらゆる面に気を回されていました。

さらに、「地域から愛される消防団づくり」を目指し、郷土愛の心が団員を育て、地域住民を育てるとの精神を持って日々消防団活動に取り組みられています。最後になりましたが、昨年十月に東京ビッグサイトで開催されました第二回全国消防操法大会ポンプ車の部で兵庫県代表として当町消防団大畑分団が出場させて頂き、準優勝という素晴らしい成績を収めることができました。ご支援、ご声援をいただきました関係者の皆様と県下各消防団の皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

